

「竹林翁」坪井伊助

文 国枝 哲夫



▲坪井伊助



▲『坪井竹類図譜』(まだけ)

今から100年以上前の明治大正時代に30数年にわたって竹の研究を続け、日本一の「竹林翁」と呼ばれた人がいます。草深の坪井伊助(1843~1925)です。12歳で庄屋見習い19歳で庄屋となり、その15年間の仕事ぶりは大垣藩からも高く評価されて名字帯刀を許されています。明治になつてからも農業団体を設立したり、村や郡さらには県議員も勤めました。

これらの公職のかたわら地域農業の経営発展や農家の生活改善に務め、山麓斜面の農地に適した作物として桑や茶の栽培も奨励しました。自家竹林の竹を販売したところ予想外の収益を得たことから竹の栽培に着目し、1881年に竹林4町歩のは150回、68歳で台湾へ、さらに朝鮮や北海道へも調査に訪れました。池野に開いた日本唯一の竹類標本園には多くの植物学者や竹林経営者が訪れました。

人々の求めに応じて、竹の種類・特徴、移植・栽培法・病害虫対策、加工法や販売用途などをわかりやすく解説したのが『実験竹林造成法』(1913)です。また『坪井竹類図譜』(1914)はモウソウチク・キンメイチクやクマガサなど84種の竹や笹の分布・特徴用途を坪井伊助が解説し、百枚を超える

を試作地としてあらゆる種類の竹を手に入れて移植し栽培研究しました。全国へ調査出張した

鮮やかな原図は本郷の樋口英夫が担当しました。再出版時には理科大学(今の東大理学部)講師の牧野富太郎博士に植物分類学上の学名をアルファベットで付けてもらい、世界に開かれた業績となりました。(現在でも基本図書として貴重な両書はインターネットで検索閲覧できます)

1916年、竹の研究や農業発展への功績を認められ藍綬褒章が授与されました。大津谷のふれあい街道の上、キャンプ場の北の芝生地に坪井伊助顕彰碑があります。

(参考『池田町史』)



▲坪井伊助顕彰碑(平成4年)



編集 池田町観光ボランティアガイド協会